

この街が 好きだから

みんなで手を携え、支え合い、ぬくもりのある街にしていきたい。
そんな思いを胸に、地域でグループで、生き生きと活動を続ける人たちがいます。

歩くスキーで冬季間の運動不足を解消

藤野地区町内会連合会

冬場の地域住民の健康づくりを目的に、五年前から歩くスキー教室を行っているのは藤野地区町内会連合会の皆さんです。運営の中心となる保健部で部長を務める草野ヨリさんは「自然豊かな地域の特性を生かして何か冬のイベントができないかと考えていた時、町内に距離スキーの元北海道代表選手がいることが分かったんです」と話します。その人は佐藤幸一さん。佐藤さんは、区役所で養成する藤野地区健康づくりリーダーの一人でもあります。



50人が参加した昨年のスキー教室。初心者用、中級者用の2コースがあります。10人ほどのグループに分かれて行うため、個人のレベルに応じて楽しめます

「ど要らず、誰もが楽しめるスポーツなんです」と話します。歩行の基本から用具の選び方

まで、佐藤さんの懇切丁寧な指導もあり、今では参加者の多くが中級以上の腕前。このほかにも、スキーで踏み固めてコース作りをするなど、スタップの苦労は大きいのですが、「参加者の笑顔を見ると疲れも吹き飛びます」と佐藤さんは話してくれました。

参加者のレベルアップに合わせて年々会場を広げてきたスキー教室。今年の開催は二月二十二日(土)、二十三日(日)の二日間です。今回は、藤野地区に一昨年末が開設したフズズスノーエリアに会場を移し、専属の講師も指導に当たります。「今後はフズズと地域が協力して、藤野地区を盛り上げていけたら」と連合会長の庄司宣登さんは話しています。

今回からは、地域外の方も参加できるようになりました。申し込みは、二月十五日(土)までにフズズスノーエリア☎(591)8111へ電話で。参加費用は無料です。

わくわく

子育て通信

子供たちに、
雪や泥にまみれて遊
ぶ楽しさを伝えたい



白石区・学生ボランティア
小野 祐樹さん

地域の人と親子の交流の場を提供している「地域の親子のふれあい交流」。これは、夏四回、冬二回、市内各区の公園などを会場に開催するものです。白石区では今回、「ゆきとあそぼう」と題して一月九日、十日に実施しました。僕は、五年前の高校一年生の時からボランティアとして参加しています。ボランティアといっても、実際は子供と一緒に自分も遊んでいるという気持ちなんです……。参加する子供は、乳幼児から小学生までさまざま。みんなすぐに仲良くなり、手を取り合って遊んでいます。

今年は雪山滑りを担当しました。ビニールの米袋と段ボールで作った手作りのそりを

使ったもので、スリル満点。子供たちの歓声が途切れませんでした。そのほかにも、雪中サッカーや、汽車ごっこなど七種類の遊びを行いました。人の役に立てれば、と中学生のころからずっと思っており、高校入学を機にボランティア部に入りました。これがボランティアへの第一歩です。その後、障害者施設でのレクリエーション、テレビのチャリティー番組の手伝い、イベントの受け付けなど、多種多様なボランティアを体験しました。

その中でも、普段接することができない小さな子供と遊ぶのがボランティアには学ばされるが多く、すでに二十回も参加しています。外で遊ぶなくなるといわれる子供たちに、雪や泥にまみれて遊ぶ楽しさを伝えられればと思っています。ボランティアに興味がある人は、次回から一緒にどうですか。(談)

※子育て関連のボランティアについて詳しくは、区役所(13階)の子育て支援担当へ。